

ESD人材養成に向けた 教員養成カリキュラム・ 教員組織・教育方法の改革

北海道教育大学 釧路校

生方 秀紀 (ESD推進センター長)

教員養成とESD

教員養成大学・学部は、持続可能な社会実現のためにどのような貢献ができるであろうか？

学校教育を通して、地球環境や社会の問題についての知識や関心を高め、その原因や解決方法を考えさせることのできる教員を養成することは一つの解答であり、実際に広く行われている。



教員養成とESD(続き)

- しかし、環境問題を知っていても行動が伴わないこと、あるいは自分ひとりが何かしても何も変わらないというあきらめなどが、若者にも大人にも増えているのではないか。

・地球環境問題はあまりにも大きく、また複雑に絡み合っている。一人の力ではどうにもならない。

・ESDはこのような状況にチャレンジしなければならない。



地域教育開発専攻の チャレンジ

- ・地域に出でよ、地域に学べ、地域と交われ、地域をつくれの掛け声のもと、学生を地域の教育力で育て上げることである。

・これらの人材が地域共同体の中で地域づくりの協働的営みにおけるファシリテーターとして活躍やがては地域を変え、地域を作っていくことを期待してのものである。



地域教育開発専攻の チャレンジ(つづき)

・もちろん、地域のエゴに陥ることなく、途上国の悩みや地球環境の危機の解決と整合性のある地域づくりをしていくことが求められる。

・このような地域ごとに持続可能な社会を現出させていく営みが環のように世界に広がっていけば、持続可能な地域社会のネットワークでできた世界が開けてくるのではないか。



地域の教育力の開発

地域には、地場産業、伝統芸能、祭り、互助組織、お年寄りの智慧、自然の恵みの持続的利用など、学校教育にまさる潜在的な教育力があるだろう。

地域に児童生徒や学生を放つならば、学校に不足しているさまざまな力を地域から引き出しすることができるだろう。

教科書に書かれた文字ではなく、地域で暮らす人々の生の声を聞くことは、持続可能な社会を考える上でたいへん重みのあることである。



地域の教育力の開発(続き)

こうした地域の教育力で育てられた人材は、やがて次の世代を同じように地域の教育力を活用しながら育てることができるだろう。

このような人材を輩出するためには、大学自身が地域に開かれ、地域と連携していかなければならない。



地域融合キャンパス！



地域教育開発専攻とそのカリキュラム

北海道教育大学の大規模なキャンパス・課程再編に伴い、2006年に釧路校教員養成課程に「地域教育開発専攻」を含む3専攻が発足した。

この課程再編の過程での「地域教育開発専攻」のカリキュラム構築には、上記のような考えを反映させ、教員養成大学・学部としてはユニークなものを作り上げた。



地域教育開発専攻の目的 (カリキュラムの基本理念)

- ・ 現実の社会や自然環境をトータルにとらえるための、教科を超えた総合的知識を持ち、それを教育プランや教材に高めていく力をつける
- ・ チャレンジ精神とコミュニケーション能力を持ち、地域に入り込んで共に汗をかき、学校と地域社会のために活動する力をつける
- ・ 生き生きとした地域社会作りのための課題や目標を設定する力をつける

カリキュラム構築

従来ありがちだった、個々の教員がそれぞれ申し出た教育内容を寄せ集めるのではなく、コース全体のカリキュラム理念を明確にし、その理念を実現するために必然的に要求される教育内容を立体的に構築した。

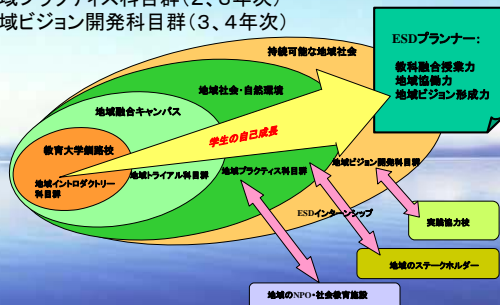
そして、この教育内容のそれぞれの結節点となる領域を担当可能な教員を配置し、欠けている分野は公募により補充する方針とした。

担当教員団は泊り込みのフィールドワークや実技講習を含む相互研修を繰り返し、課程発足に備えた。



構築されたカリキュラム

- ◆ 地域イントロダクトリー科目群(1, 2年次)
- ◆ 地域トライアル科目群(1, 2年次)
- ◆ 地域プラクティス科目群(2, 3年次)
- ◆ 地域ビジョン開発科目群(3, 4年次)



地域イントロダクトリー科目群

学生に地域教育や環境教育への動機付けを与えるとともに、基礎知識や問題発見のための切り口、視点を明示する。

- ・ 環境を読む
- ・ 地域を読む
- ・ 環境リテラシー
- ・ 子どもと環境教育
- ・ 地域の自然環境
- ・ 地域社会と環境
- ・ 環境と産業技術

環境を読む



地域トライアル科目群

・学生をフィールドに頻繁に引率し、複数の教員が指導を行う。

・地域の自然に浸り、また地域の人々との交流を通して、地域社会や自然環境がもつ特性や解決すべき課題の発見と体験的な理解を促す。

・こうすることで、興味・関心をより現実的・具体的なものへと導く。

- ・東北北海道アウトドアトライアル
- ・釧路湿原 エコウォッチング
- ・環境教育と産業トライアル

地域トライアル科目群

東北北海道アウトドアトライアル



地域トライアル科目群

東北北海道アウトドアトライアル



地域トライアル科目群

釧路湿原エコウォッチング



地域トライアル科目群

環境教育と産業トライアル



地域プラクティス科目群

学生が課題を発見または解決するために、自らフィールドに向き、地域社会の産業や生活、自然環境の中で継続的に行動し、地域の人々の夢や悩みに共感しながら活動を行う。

・この活動を通して、地域に内在する価値や困難、矛盾や課題に気づき、地域の人々とともに考え、行動する力を身につける。

- ・地域ボランティア
- ・地域と情報ネットワーク
- ・地域健康教育コーディネーター
- ・アドベンチャー教育
- ・地域文化と触れ合う
- ・環境教育活動I、II
- ・地域教育活動I、II

地域プラクティス科目群

環境教育活動ⅢA



地域プラクティス科目群

地域健康教育コーディネート



地域ビジョン開発科目群

・地域や自然環境の中で見出した課題を地域教育や学校教育を通して解決していくための、地域ビジョンや教育プログラムを学生が主体的に作りあげる。

・授業ではそのために必要な専門知識や授業開発力を培い、更にプログラムの実践やビジョンの発信を促す。

環境教育プランニング演習Ⅰ、Ⅱ
子どもと環境教育演習Ⅰ、Ⅱ
地域の自然環境演習Ⅰ、Ⅱ
地域の生態系演習Ⅰ、Ⅱ
地域社会と環境演習Ⅰ、Ⅱ
環境教育と農業演習Ⅰ、Ⅱ
環境教育と工業演習Ⅰ、Ⅱ
アドベンチャー教育演習Ⅰ、Ⅱ
地域健康教育コーディネート演習Ⅰ、Ⅱ
地域文化演習Ⅰ、Ⅱ
地域情報ネットワーク演習Ⅰ、Ⅱ
環境教育活動Ⅲ、Ⅳ
地域教育活動Ⅲ、Ⅳ
チャレンジプロジェクト(自主活動)

地域ビジョン開発科目群

環境教育活動Ⅳ(イメージ)



チャレンジプロジェクト



新しい教育方法

◆カリキュラム構築に際しては、ESD特有の教育方法を大胆に取り入れた。すなわち、

- ・学際的・ホリスティックな内容を大幅に取り入れる
- ・批判的思考と問題解決を重視する
- ・多様な教育メソッドを採用する
- ・現実の場面に当事者的に参加的に意思決定に関与する
- ・実際の生活と結びつける、そして
- ・地域に足場を置く

新しい教育方法



子どもと環境教育
(高校生への公開授業)

教科融合・相互乗り入れ型 授業科目の開設

カリキュラム構築:

- ・教科縦割りや研究室単位の教育指導を排す。
- ・地域や時代に即応した教科融合型の授業科目
- ・複数教員の担当による分野連携型の授業科目

これによって、統合的な視点を培う専攻教育を行う。

教科融合・相互乗り入れ型 授業科目



環境リテラシー

教科融合・相互乗り入れ型 授業科目



環境リテラシー

教科融合・相互乗り入れ型 授業科目

環境教育活動II



地域人材の積極的活用

・地域の課題や問題を理解するために、大学での講義や演習に現実に地域環境にかかわるステークホルダーをゲストスピーカーとして招く。

・それにより、学生が現実社会がかかえている課題についての認識を深める。

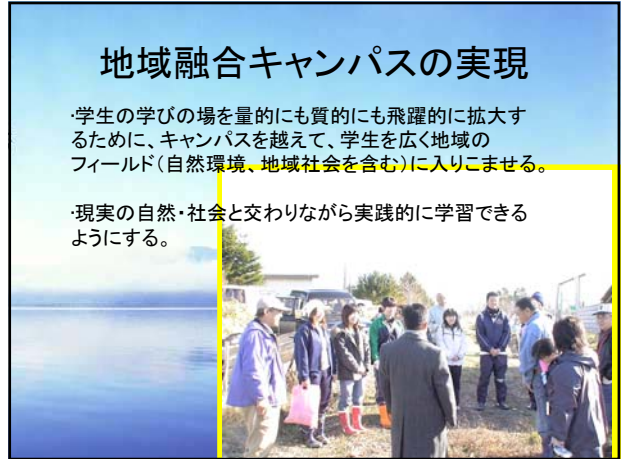
・あるいは地域文化の担い手を大学に招き学生がインタビューを通して、地域文化の意義とその価値を再確認する。

地域人材の積極的活用



地域融合キャンパスの実現

- ・学生の学びの場を量的にも質的にも飛躍的に拡大するために、キャンパスを越えて、学生を広く地域のフィールド(自然環境、地域社会を含む)に入りこませる。
- ・現実の自然・社会と交わりながら実践的に学習できるようにする。



地域融合キャンパスの実現

・また、それらの授業を受けて触発された学生により自主的・主体的に行うチャレンジプロジェクト(地域実践活動)が住民や地域の子供達と協力しながら展開される。

・これらの活動を「ESDインターンシップ」と位置づけ「ESDプランナー」の認証を受けるためのインセンティブとする。



地域融合キャンパス

環境教育活動I
(提携農園)



地域融合キャンパス

環境教育活動I (町内会と連携した花壇づくり)



NPO・社会教育施設との連携

大学が地域のNPOや社会教育施設と連携して、フィールド系の教育活動を行い、その内容を充実する。

学生が地域のNPOや社会教育施設と交流しながらチャレンジプロジェクトを行う。



協力校における授業づくりへの参加

- ・環境教育・地域教育に取り組もうとしている市内や近隣町村の学校に「ESDインターン」として学生を派遣。
- ・授業案や教材作成への協力。
- ・求めに応じて出前授業も実施。



地域住民への授業公開講座実施

本取組では、ESDプランナー養成講座として大学のESD関連授業科目を住民のための授業公開講座として開放する。



ESDプランナー認証

- ・授業公開講座制度導入により、地域住民に対してもESDプランナー資格取得の道を開く。
- ・この資格は、16単位履修により認証される。
（うち6単位は他大学の単位および社会での実務経験で代替可能）
- ・北海道教育大学により付与される（認定は当専攻が行う）。
- ・本GPでは、この認証を広く知ってもらうために、ポスター、チラシ、ウェブサイトで広報を行っている。

ESDプランナー資格

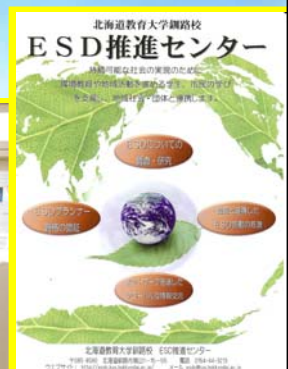
- ・この資格は、国家資格でも全国規模の資格認定期間が認証するものでもなく、北海道教育大学がその責任において独自に認証するもの。
- ・このようにローカルな資格ではあるが、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に応募し、厳しい審査を経て選定されたプロジェクトのもとで行われるものであり、他のいくつかの大学で認証している同趣旨の資格に匹敵する。

ESDプランナーの人材像

- ・自然と共生する持続可能な地域社会を実現するためには、その実現に向けて地域の活動を巻き起こすファシリテーター（リーダー、サブリーダー、サポーター）が不可欠。
- ・そのファシリテーターには、自然環境やその持続可能な利用についての知識、生きがいのある地域社会づくりを促進していく実践力が求められる。
- ・「ESDプランナー」は、ファシリテーターとして地域の自然再生や地域社会の再活性化のためのアイデア創出と具体的な活動を行う人材。

ESD推進センターの設置

住民と大学との連携のために、本分校ではESD推進センターを設置した。



ESD推進センターの目的と組織

・設置目的:

ESD に係る調査・研究を行うとともに、持続可能な社会実現に向けた課題に取り組む学校教育及び社会教育に関わる人材の育成、並びに地域と連携した ESD 活動の促進を図る。

・業務:

- (1) ESD に関する調査・研究の推進
- (2) ESD プランナー資格認証を含む大学内外における ESD 人材の育成への支援
- (3) 地域社会と連携した ESD の実践及び普及の推進
- (4) その他必要な業務

・組織:

- (1) センター長
- (2) センター員(釧路校教員)
- (3) 事務補佐員

ESD推進センターの活動

～現在進行中のもの～

- ・センター紀要「ESD・環境教育研究」の定期刊行
- ・ESDプランナーの資格認証実務
- ・ユネスコ・スクール支援大学間ネットワークへの参加
- ・ESDリレーセミナーの実施
- ・ESD関連講演会・報告会の実施
- ・エコプロダクツ2008への出展
- ・ウェブサイトによる情報発信

ご清聴有難うございました。

現代GP「持続可能な社会実現への地域融合キャンパス」

<http://ckk.kus.hokkyodai.ac.jp/gp/>

地域融合キャンパス

検索

「釧路校ESD推進センター」

<http://esdc.kus.hokkyodai.ac.jp/gp/>

ESD推進センター

検索